

羽はたけ! こどもたち

大堀 寛人

⑤

雪が積もった天気の良い日は、こどもたちと広島県

緑化センター(広島市東区)や三滝少年自然の家(西区)へ散策に出掛けます。

木々の間からこぼれる心地よいお日さまを感じながら、雪道を歩きます。こずえを飛び交う

野鳥を見たり、真っ白い雪の上に残している動物たちの足跡やふ

んを見つけたりする遊びをします。「あっ、ちっちゃな足跡だ!」「うんち発見!

!」。こどもたちの得意げな歓声が響き渡ります。

見つけた足跡やふんはタヌキ、イノシシなどのもの。雪の中で食べ物を求めてさまよった形跡を、こどもたちは実際に目の当たりにします。

雪の日に、あえて安佐動物公園(安佐北区)に行ってみたりもします。アフリカ原産のアヌビスヒヒは、ヒヒ山の隅で身を寄せ合いい、寒さに耐えています。

こどもたちは、熱帯地域が生息地である動物たちのつらそうなきぐさに目を凝ら

します。春や秋に見るのんびりした動物たちとは、まったく違う一面を知るので

す。太田川に飛来するヒドリガモやカイツブリなどの水鳥を観察することも、こどもたちの楽しみの一つで

す。中でもカイツブリは潜りが大の得意。一度潜ったらかなな姿を見せないの

で、どこで水面に浮かび上がるかをみんな当てっこをします。

冬の動物を見ると、こどもたちは動物たちの厳しい現実を垣間見ます。また、姿を見なくても足跡やふんを見つけて、動物たちの生活が自分たちのすぐそばにあることを知りま

す。こんな経験を積み重ねたこどもたちが、むやみに山を削るような大人になるとは思えません。

言葉だけで環境の知識を教えても、「環境を守る心」は育ちません。身近な環境を題材に、こどもたちの知的好奇心や想像力をかき立てるような活動を何度も経験させることで、自然や動物に温かいまなざしを注ぎ、環境を大事にし

しょうとする心が育つのではないでしょ

冬の動物観察

生活に触れ環境を意識

た鳥さんもいる?」とこどもたち。「いるかもね」という先生の答えに「すげえー!」。

うか。(ぶれいすくーる・ちゅーりっぷー広島市西区園長)



「かわいいカモさんみつけた!」。広島市西区の本川河川敷で水鳥を観察する3歳児たち(園提供)